

適疎戦略研究会を運営している吉田さん（摂南大学 地域総合研究所）からのご意見

ご自身も子育てをされている吉田さんに笠置町の子育て政策を見ていただき、ご意見を伺いました。



摂南大学 地域総合研究所
吉田 雄一朗さん

仕事柄、さまざまな自治体を訪問し、人口動態や自治体独自の子育て政策制度を調査しています。

笠置町は人口が少ない分、人間味溢れる温かみのある支援をされています。年中児全員に公認心理士が発達検査を実施し、事後フォローとして発達支援クリニックなどと繋げる「発達障害児早期発見・早期療育支援事業」や、障がいの有無に拘わらず、保育所入所児の保護者を対象にした「ペアレントトレーニング教室」など、子育て政策を通じて、子ども、保護者に寄り添う町の雰囲気を感じることができます。

出生届が提出されると、部署に関わらず、役場内は大盛り上がりだそう。小さい町ならではのようです。笠置町は、町全体で子育てを応援する環境が整っています。

研究所スタッフからも、「障がいや発達上の支援を必要とするお子さまを育てるのは本当に大変だと想像します。」とコメントがありました。

障がいの有無に拘わらず、保護者の中には、子育てに関する相談ができる場にお困りの方もおられることと思います。痒い所に手が届く、子育て支援制度が整っているというのは特徴的だと思います。